



青木たかしレポート

最年少松本市議会議員『青木たかし市政レポート』

vol.1-2016.7

建設環境委員会の副委員長に就任いたしました。

5月16日臨時会にて、建設環境委員会副委員長を務めさせて頂くことになりました。松本市議会基本条例第10条は、議会が政策提言を行うことを定めています。これに基づき、平成27年度、青木たかしが副委員長を務めた経済地域委員会として提言をまとめています。内容は、中心市街地の個店と、出店予定の大型商業施設の共存を図る「松本城下町モール構想」。今年は建設環境委員会の副委員長として、再生可能エネルギーの地産地消やゴミ削減、次世代交通、バス路線を含む公共交通等について研究していきます。ご意見等ありましたらぜひお聞かせ下さい。



Accounting Report 会計報告

2016年1月1日から7月25日までの青木たかし後援会の会計報告です。他市の事例を調査するための研修参加費、資料代、書籍購入費が10万円弱、そして、このチラシの印刷代等に経費がかかっています。一方、収入（活動費）は青木たかしの議員報酬からの持ちだしとなっています。松本市議会の場合、政務活動費は一人あたり年間25万円で、会派所属であれば個人のチラシ発行には実質使えません。真剣に政治活動をし、情報発信を重ねるほど、支出が増えていきます。ぜひ青木たかしの活動にご理解を頂き、小額でも構いませんので、政治献金、カンパによってお支え頂けますと幸いです。

支出		口座名 青木たかし後援会	
会場費	3,520 円	郵便振替	00550-6-51792
調査研究費	93,048 円	八十二銀行 寿支店	店番号 420 口座番号 346047
機関紙誌の発行その他の事業費	200,000 円	長野銀行 芳川支店	店番号 104 口座番号 8820346
合計	296,568 円		

Information お知らせ

いつでも市政相談等に応じます。また、お呼びいただければお話を伺います。お気軽にお声がけ・ご連絡ください。また、青木たかし後援会へご入会いただければ、活動報告をお送り致します。ご加入頂きますようお願い申し上げます。ご入会のご案内は、別紙「青木たかし後援会入会のご案内」をご覧ください。

Profile 青木たかしプロフィール

1989年（平成元年）12月30日 松本市生まれ 松原在住

- ・本郷幼稚園卒
- ・岡田小学校を転校し、明善小・中学校卒
- ・松本深志高校卒
- ・公立高崎経済大学在学中に衆議院議員公設秘書へ

2015年4月の統一地方選にて3,478票を頂き、「県内初の平成生まれ議員」として初当選



青木たかし後援会

TEL 0263-50-8226 / FAX 0263-50-8735
E-Mail taoki1230@gmail.com

フェイスブック「青木たかし」で検索
ツイッター @aoki1230 (https://twitter.com/aoki1230)
LINE@ 「@fdy9614h」でID検索

LINEで→
友だちに追加



青木たかし 松本 検索



松本駅前で、若者討論会を4回開催

松本市内外の10代から30代の若者とともに、屋外で幅広く政治のことを語り合う「まちなか討論会」を実施しています。これは松本駅東口のウッドデッキ上にパイプ椅子を並べ、マイクを持ちながら5~10人で討論をし、その様子を通行人に聞いてもらうというもの。私は学生だった頃から今に至るまで、様々な社会活動に参画してきましたが、**その中で将来の日本に危機感を抱き、志をもった多くの若者たちと出会うことができました。**彼らとは機会あるごとにこれからの松本や日本のことについて、時には夜を徹して話し合ってきたのですが、**だいたい最終的に行き着くテーマは「これを仲間内だけの議論に終わらせず、同世代に広げていくにはどうしたらいいだろうか」ということ。**そんな中、**昨年の国会で改正公職選挙法が可決・成立し、若者の投票率は低いままに18歳から選挙権が得られることとなりました。**これを受け、**同世代が政治に関心を持つきっかけとなるような行動を起こそう**ということに。

しかし、政治系のイベントを屋内で開催すると元々関心のある人にしか届けられないだろうということで、「無関心層にどうしたら届けられるか」が課題でした。そこで考えたのが、**自分たちが屋外に出て行き、マイクを通して普段話しているような内容を通行人に聞いてもらう**ということ。名前を「まちなか討論会」としました。最初はどうか全く想像が付きませんでした。実際にやってみると、若い人からお年寄りの方まで立ち止まって話を聞いてくれる人もいて、飛び入りの参加も交えながら、若者同士のありのままの姿をこれまで伝えてきました。話した内容は、**どうしたら若者は政治に興味を持てるのか、将来どんなことを不安に思っているか、今の世界情勢の中で日本はどうあるべきか等々...**市内で政治議論を当たり前光景にすることができたなら、**ということを理想として描きましたが、そのためにはまだまだ課題は多く、屋内外での実施なども含めて次の展開につなげていきたいと考えています。**